

からす新聞

第7号

学びの冬 学ばない冬もある

忘れているかもしれないが、カラーズは塾である。塾の冬は学びの冬である。従って冬期講習がある。もちろん学ばない冬もある。人は自由である。君の自由は君のもの。受けるもよし、受けないもよし。君は自由だが、君は自らの自由に責任を持たなければならない。

カラーズの講習は、英語・数学・国語を各1時間ずつ、計3時間×8日間がとりあえず標準。君が何をどのように受けるかは、も

ちろん君の自由。2、4名のグループクラスと個人クラスがあります。

日程

一二月二六日～一二月二九日

正月休み

一月四日～一月七日

という事になってます。

中学三年生の3学期の授業

3学期の授業は各学年とも一

月8日から始まりですが、三年生

については、私立校受験日までに

一・二月分の授業を集中的に行い

ます。

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

御存知だろうか、自然界には正円も直線も存在しない、ということ。
数学は、国語に比べて論理的にすっきりしている、という印象を受ける人は多いだろう。数学が約束事の上に成り立っているからである。逆に考えれば、それらの約束を受け入れなければ数学には参加できない、ということにもなる、その是非はともかくも。

例えば、こんな約束がある。点は大きさ(広がり)を持たず、位置のみを有する。線は幅や厚さ(広がり)を持たず、位置と長さのみを有する。何だこりゃ。何を言っておるのだ、君は。

勿論、数学に慣れているものには、このへんてこりんな説明もごく当たり前のことなのだが、初学者にとっては、数学をよりわからないもの・より理解し難いものと印象づけるのに大いに効果を発揮するものでしかない。

私が中学三年生のとき、授業中に作図をする機会があった。なかなかはずばらだった私は、鉛筆を尖らせて細く美しい線を描こうなどという意識は毛頭なかった。一ミリの優に超える太い線を堂々と引いていたものだ。そこに数学の先生様蛇足だが、私の属するサッカー部の顧問でもあったが通りがかる。

「おい、全太。もつし何とかならんのか、その線」というようなことを彼は言った。明らかに、線の太さに不満があるようであった。おかし。本質的に

線には幅や厚さはないのであって、便宜的に黒鉛と粘土の混合物の粉を紙の上になすりつけて表現しているだけのこと。それに大きさを感じてはいけないのである。描かれた線の太さに文句を付けるのは数学的ではない。それは、美術や技術の範疇の問題である。

勿論、その先生様が酷い人だというわけではない。非常に質実なややもすると質実に過ぎるような立派な人物であった。醜い図を描いていた私が悪い(本質的に、醜い図は感覚の問題であって善悪の問題ではないが...)と言えは悪いのである。彼が期待していることを実現してあげるべく努めるだけの度量と実際の技術が足りなかったのである、私は。

教える側に立つても、基本的に私のスタンスは変わっていない。板書はだいたいにおいて、ががのアルファベットばかりを書いているわけだけれど、たまに日本語で書いているときには、それ、何て書いてあるんですか?などと質問するものもある。図にしても、中学生のときにノートに書きなぐっていた以上のものではない。直線がまっすぐであることは滅多にないし、円が丸いことも稀である。もう少し美しく書こうとすれば、恐らく、ちよっとばかりはましな図が描けるだろう。だが、そうはしない。美しく書くために時間を使うよりは説明や他の問題に

(八面に続く)

今日の紙面

- 二面(オーラ面)
 - 松本と話そう、ピン、ボン、パン
 - ダジャレイ・ヌーボー
- 三(芸術面)
 - 鳥瀬画伯の似顔絵
 - レイズ・ギャラリ
- 四(天面)
 - みんなの詩・世紀末大気予報
 - 五面(アメリカンレポート)
 - 村上の英文法講座
 - ヤンヒコ
 - 六・七(国語面)
 - 中国へ行こう!
 - 語学教育を原点表現へ
 - 八面(教養・トビックス)
 - 八八堀井の法律教室

1クラス4人までの少人数制学習塾

シア

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺 ファミマ 中野板上駅

松本と話そう。ピン、ポン、パン

読み切り短編クリスマス小説

Love is real

「ピーッ」

夕刻の家路に向かう人々に混み始めた電車内の一時の静寂は、いきなりナイフで引き裂かれたかのようだ。

「はい。うん。今、二子玉川。うん。あと、だから、20分ぐらいかな。うん。うん。分かっている。それじゃねえー。」

声の弾み具合からして、恋人からなのだろう。見た感じ、20歳前後の学生のような。待ち合わせか何かで相手を待たせているのだろうか。少しだけ時計に目を遣り、再び目を閉じる。

携帯電話。自分の学生の頃にはなかった代物だ。こいつの出現で俺らの頃と、彼女らの、つまり今の学生の間関係はどう変わったのだろうか。と大助は考え始めた。やはり便利だ。目の前の例のように待ち合わせ時刻に遅れそうになると連絡が取り合えるからだ。

が、それは、最終的にその人に役立つのだろうかとも思い始めた。待ち合わせしたなら遅れなければいい。が、それがあると、遅れそうになったらその時は連絡すればいいや、という甘えが生じるのではないか。そうすることで、自分を律することがなくなっていくように思えた。と同時に、相手のこともより粗末に扱うことが多くなるようでもある。結び付ける道具が離れさせる道具になりうるのだ。

外は、ほとんど暗い。もう師走だ。はるかに続く住宅群の明かりは無機質に大助の目の前を流れていく。

「ピーッ」「ピーッ」

さっきの傷から癒えかけていた空間は、再び傷を受ける。

「はい、もしもし。」

今度は、さっきの女性の、一人はさんで座っている男性の番だ。

「うん。分かった。買って行くよ。うん。それだけでいいの？ え？ あと何？ え？ ちょっと聞こえない。」ちらっと周囲の目を意識し、手を話し口に持っていく。背中が丸まる。「え、だから、春菊と、サロンシップ？ うん。はい。はい。」また、ちらっと周りに目を遣り、すぐに目を伏せ、次にポケットに電話機をしまい、腕を組む。そして体勢を立て直し、大きく呼吸をし、周りの世界を遮るようにまぶたを閉じる。組まれた、左手の薬指には、結婚指輪が鈍く銀色に光る。

この一連の動作は、ほとんど決まって中年サラリーマンがやる、会話後の一つのパターンである。とてもごちないし、見て格好悪い。そんなくらいなら、始めっからするな、といつも大助は思っている。

電車は「たまプラーザ」という駅で止まり、そこでかなりの人が降りたが、替わりにかんりの人が新たに入ってきた。それで大助は、車両の最も奥に追いやられた。そこから先は次の車両で、目の前はシルバーシート、というよくある景色だ。ちなみに、さっきの女性とサラリーマンは、そこに座っている。

ふと右に目をを遣ると、絵に描いたような、いかにも老女、というような老女が踏ん張るように立っていた。踏ん張ってないと、重力に逆らえないんだらうな、やっぱ、それだけ地、すなわち土に近づいているんだらうな、しかし、その踏ん張り方は立派だな、などと変なことに大助は感心していた。

その老女の目の前には、20代後半のOLだろう、きれいに髪の毛が整っていて、こざっぱりとした女性が座っていたが、顔に表情が全然ない。読んでるのだから、読んでないのだから分からないが、とりあえず目は膝に上の雑誌に落ちていた。

女性誌なのだろう。とてもありがちなことが、とてもありがちに綺麗に、とてもありがちにオシャレに書いてある。「大切な人と大切な夜を。今年のクリスマスのおすすめスポット。もっと愛が深まるはず。」

この女性にも大切な人がいるんだな。こんな血が巡ってないような顔をしながらでも、もっと愛を深めたいんだな。と大助は信じ難かった。

いや、逆なのかもしれない。彼女の視覚神経と、その雑誌には実際の約50cmの50乗くらいの空間が感じられた。本当は、とても孤独なのかも知れない。あこがれを通り過ぎて、あきらめであるのかも知れない。

「青葉台。青葉台。」ドアが開いてホームのアナウンスが車内に響いた。大助は、別の空間へと出て行った。そこは、生温かくなかない、素直な冬の冷たさだ。

皆、誰かに愛されたいし、誰かを愛していたいんだな。または、愛されているし、愛しているんだな。けども、自分が思う愛とは別の愛のように、大助には思えてならなかった。

大助は、独り仕事場へと歩いていった。

All we need is love.

今月のダジャレイ・ヌーボー

お題 紅葉・読書・だんご

紅葉を見にいコーヨー。(たく)
読書は体にドクツシヨ。(たく)
だんごをダンゴ食った？(たく)

中山歯科クリニック

診療時間AM9:00 ~ PM9:00
水曜・土曜AM9:00 ~ PM6:00
休診日・祭日

03-3381-1109

ただいまホームページ作成中

画伯がいらない！

アトリエはもぬけの殻！

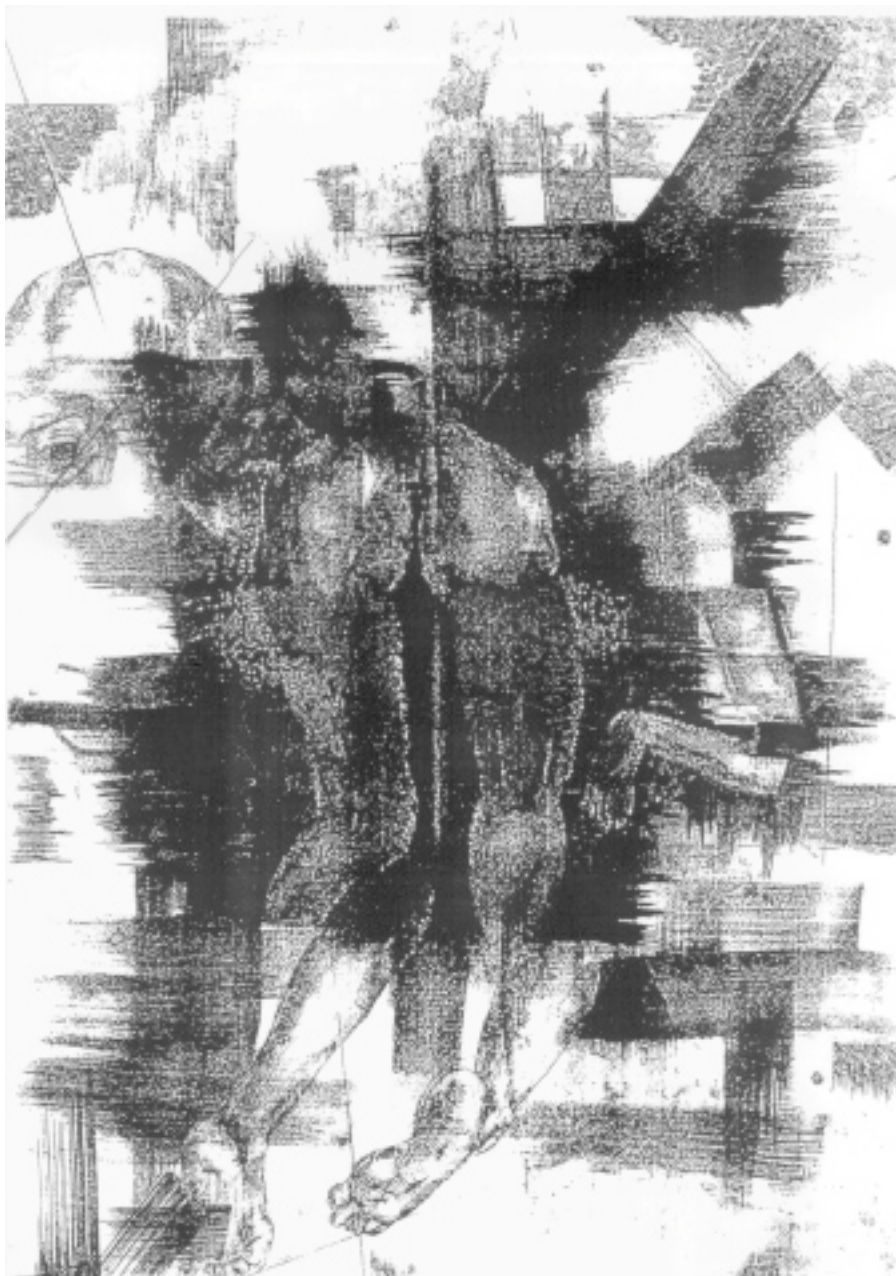
画伯は一体どこへ行ったのか？今月号に載せる予定の絵も未だ編集部が届いてはいない。確かにこれまでも締め切りを守らない画伯ではあったが、今回のような連絡も入らないことはなかった。ある事情通によると、画伯は近ごろとみに怒りっぽくなっていたとの事。それも自らの筆致力に対する怒りであったらしい。そう言えば、思い当たる節がある。先月号掲載の画伯自画像の怒りマーク

だ！！画伯はそれ程までに煮つまっていたのだろうか？

先の事情通は、「パリでもう一度勉強し直したい・・・」と画伯がボソリとつぶやくのを聞いている。現在、我が編集部は当社のパリ支局へ連絡し、画伯の所在を捜索させている。画伯には是非とも戻ってきて欲しい。戻ってきてもらって、もう一度コーナーを再開して欲しい。それに、画伯はまだ堀口先生の似顔絵を書いてないし・・・。

読者の皆さんと共に画伯の無事復帰を心より願いつつペンを置きたいと思う。

Rei'sGallerly



人体

今月のみんなの詩

自分を信じて

富澤優美

進むべき道を見失って 迷いこんでも
自分を信じていつも歩いてゆくことで
道はみつかる きつと

そうさ 冷えた夜に抱かれても
そうさ 何も恐れずにただ行くべき道を
今 進んでく

闇に包まれた瞳の彼方 光が射した
煌めきへの隔たりは近くて遠いけど
道じゃなくても きつと

そうさ ぼくが見つめる方向は
そうさ きつと間違っではないのだから
自分を信じて

そうさ 冷えた夜に抱かれても
そうさ 何も恐れずにただ行くべき道を
今 進んでく

テンペル新井の

世紀末天気予報

天気予報を毎日楽しみにしています、という人は少ないだろうが、明日(今日)の天気は気になる人は多らしく、テレビを観ていて天気予報が始まれば、晴マークなのか雨マークなのか、スーパーコンピュータやお天気おじさんが弾き出した結論に目を向けてしまうようだ。

また、その影響力も結構あるらしい。たとえば、寝る前に観た天気予報で、「明日は午後から雨が降りますので、出かけるときは傘をお持ちになってください」と言っていたとしよう。すると、次の日の朝どんなに空が晴れていようと、傘を持ち歩いている人が多勢いることに驚いたりする。

しかしある一方で、天気なんてどうだっていい人も多い気がする。もちろん天気左右される職業に就いている人は別だが、土石流や土砂崩れの心配のない都会では、雪でも降らないかぎり、雨が降ろうが風が吹こうが大して気にする必要もないからだろうか。天気図などを

見なくても、お天気マークだけをちらっと見れば、済んでしまうくらいの気になりようのような気がする。

逆に、お天気マークなどどうだっていいが、天気自体は気になるという人たちもいる。漁師や山師といった人たちだ。この人たちの普通じゃないところは、長年の経験と勘を生かして天気を予想することで、外れたりすると、命を落とすこともあるということだ。天気予報なんて一切観ないという漁師もいるという。コンピュータやお天気おじさんには命までは預けられないということか。

まあ、どのみちこの人たちは特殊な人たちで、私たちとは違う世界の話なのかも知れない。しかし、どうしてこうなるの?と考えてみたり、自分の判断で選択、行動することはとても大切なことだと思うし、何の抵抗もなく他人が出した結論をそのまま鵜呑みにしてしまうのは、とても危険なことに思える。どうだっていいお天気だけの話にしてもらいたいものである。



ぼくたちは明日生まれる

03-3220-4679

<http://www.go-zeta.com/>



Ken-ichi Shinozaki, architect

5-12-3 Asagaya-Kita, Suginami-ku, Tokyo,
Telephone & Facsimile: 81-3-3223-0456;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

ヤンヒポのえっ何? どうしたの?

やっと原稿を書く事にしたヤンヒポだ。ここでお詫びを一つ。前回途中になった運転免許取得講座だったが、今の所暗礁に乗り上げていて最終的な結論が出ていないのだな。だからこの件は保留にして後日詳しく解説しながらアメリカ合衆国を検討することにしよう。

こちらは現在午前4時半。さっきどうしても腹が減って眠れないので、車で一走り以前書いたオープンレストランへ行ってきました。

今回のメニューは格安セットみたいなやつで、卵3個を好きに調理したものに付け合わせが石焼きイモを丸ごと一つを一口大に切ったもの。それにハムのステーキ。サイズは縁日で食べるお好み焼きのさらに一回りでかいサイズ。それに特大パンケーキが2枚。それにコーヒーで6ドル50です。しかし、あんなハムは日本ではお目にかかれないうわ。これがまた結構いけるんですわ。確かにステーキだけの事はあるのね。ちゃんとステーキ用のナイフもついてくるしさ。

しかし、今回は食べ物の話ではなくて、そこで起きたちょっとした小話でやんす。

例のレストランは屋外の席が設けてあるのは前回書いたとおり。喫煙者にとっては有り難いところ。その席はガラス張りの座席のすぐ外にあって中からもよく見えるわけですね。自分が座った席のすぐ隣に二十歳ぐらいの女の子が二人とその隣に四十過ぎのちょっとこ洒落たおじさんが座っていて、そのおじさんが一生懸命その二人を話して誘って友達になろうとしています。女の子達もまんざらでない様子だったんですが、しばらくするとどう見ても高校生って感じの少年グループが15人ぐらいで入ってきて(こちらでは高校生の喫煙が厳禁)屋内の窓際、ちょうど屋外席の真ん前に陣取りました。そのとたん高校生の何人かが、外に座っている女の子に手を振ったりして一生懸命アプローチをしています。当然おじさんとしては強敵現るなので、少年たちを老獅子のごとく睨み付けます。でも少年達はそんな事全くおかない。なんせ15対1ですからね。そのおじさんは彼女たちに「ああゆう手合いは気をつけた方がいいよ」的なことをしきりに耳もとで囁いています。しまいにはこっちを向いて「お前もそう思うだろ」なんて助け船を求めたりしてきます。自分はおもろいので「若くていいなあ」的な当たり障りのないコメントを残したりしました。そのうちに、少年グループの代表が表に出て

きて演説を始めました。最初はおじさんに向かって「この娘達はおじさんのつれなの?」おじさんはあたり前のように「そうだよ、オレの友達だぞ。ちょっかい出すなよ」的なことをいいはなちます。彼女達は一応おじさんの顔をたてて、適当に相槌をうっています。しかし、少年代表はそんなことではくじけません。なぜ少年達の間でそんな風な話になったかわかりませんが「オレ達みんな、貴女達の為に歌うから中へ一緒に来てくれない?」なんて言うんです。流石に屋外席の面々はあつげに取られてしまい、連中が本気かどうかわからない世界に入っていました。少年代表はその言葉を残して中へ入って行きました。彼女達は最初「変な子たちねえ」なんて話してたんですが、ちょっと行ってみよかなんて小声で言い出しています。おじさんはもう気が気ではありません。目の前で老獅子が獲物を若いハイエナに持っていかれそうになっています。しかし、若さにはかなわず、彼女たちはいそいそと店内へ入って行ってしまいました。すると中からは大きな歓声が聞こえてきて、店内は歓喜半狂乱の状態です。その後、少年たちは彼女達を特等席に座らせて、全員で肩を組み「あなたは僕の天使だ」的な歌を延々合唱しています。よく映画のワンシーンに出てくるような状態でした。しばらくすると流石に店のマネージャーが止めに入りましたが彼女達には大変インパクトがあったようです。嬉しそうに拍手をしていた姿が妙に微笑ましく印象的でした。しかし、一番印象に残ったのは、その後のおじさんです。顔を真っ赤にして、うつむきブツブツ呪文のような言葉を延々唱えつづけています。その呪文内容までは聞こえませんが、やはり老獅子にはつらい仕打ちだったようです。

できればその表情をみなさんにお見せしたかったのですが、あいにくカメラを持ち歩く習慣がないのでかなわぬ夢に終わりましたが、なかなか面白く興味深い夜食紀行になりました。

アメリカって国は良くも悪くも開けっ広げな所です。また、個性やエンターテインメント性は大変役にたつようです。日本人にはなかなか難しい部分のようですがアメリカ大陸への上陸を考える場合、派手なパフォーマンスの一つでも習得してくると役立つ事請け合いです。

皆さんもL.A.へおこしの際は是非サンセットストリップ(Sunset Blvd)にある「メルズ」で食事を試してみませんか?

あ、ちなみに言い忘れましたけど、お得セットを全て平らげたのは言うまでもありませんね。

以上、ヤンヒポこと堀之内 遊でした。

< Dr.村上のきつと役立つ英文法講座 > Vol.7

一般動詞

英語の文には意味上大きく分けて、三つの文しかない。二つは先にbe動詞で述べたが、三つめは、(～は～けいする)という文である。この文を作るために使われるのが、do, does, didである。しかし、これらの助動詞は肯定文においては省略されることが多い。

1. 現在形

- ex.1) You (do) like baseball.
- ex.2) You do not like baseball.
- ex.3) Do you like baseball? Yes, I do. No, I do not.

例文からもわかるとうり、(1)のdoは省略されているが、否定、疑問の文では省略せず、というよりもdoを使って表現するのである。

- ex.4) He (does) like baseball. He likes baseball.
- ex.5) He does not like baseball.

ex.6) Does he like baseball?

次に、三単現のsについて考えよう。このsは3人称単数現在形の略であり、主語がIでもyouでもなく単数の時のみ、動詞につくものである。肯定文では、doesも省略されるので、doにしているesが後ろの動詞につくものである。単語によりsだったりesだったりする。よって肯定文では右側の表現になる。しかし、doesが出ている時は動詞を原形に戻すのを忘れないように。

2. 過去形

- ex.7) He (did) play tennis. He played tennis.
- ex.8) He did not play tennis.
- ex.9) Did he play tennis? Yes, he did. No, he didn't.
- ex.10) You (did) go to the park. You went to the park.
- ex.11) You did not go to the park.

さらに、過去形について考えると、ここでもdidという助動詞が消えており、右側の表現にするのが普通である。過去形の場、動詞は規則動詞、不規則動詞の二つに別れ、規則動詞は動詞の後にd、またはedをつける。不規則動詞は単語別に覚えるしかないの注意。疑問、否定の時はdidがでているので、動詞を原形に戻す事を忘れないように注意。

これだけは知っておきたい中国語 中国へ行こう!

第3回 中井 裕子

这是什么?

発音は標準語である普通語

(これは何ですか?)

チャーシーチェンマ?

中国には、日本で見られない食べ物や品物が数多くあります。そこで、中国語を全く話せない人でも、この言葉さえ覚えていれば、会話がはずむのではないのでしょうか。

我要

(~を下さい。)

ウォヤオ

食べ物を注文する時によく使います。中国へ行く機会があれば是非この言葉を覚えていって下さい。尚、~に入る言葉(好きな食べ物)は、辞書やガイドブックなどで調べて、いろいろ応用してみてください。

多少钱(銭)?

(いくらですか?)

ドウオシャオチェン

たとえ中国語を知らなくても、品物をこっそり持って帰ってかえる、なんてことはできません。この言葉を使って、品物の値段を確認して下さい。

便宜一点儿吗?

(少しまけて下さい。)

ピエンイーディアマ

私の賢い友人らはこの言葉をよく使っていました。買い物好きの人には、この言葉は重宝するでしょう。

厕所在哪儿?

(トイレはどこですか?)

トゥースオザイナア?

一般的に、喰う、寝る、だす、は生活の基本であります。中国の公衆トイレは決してきれいとは言えませんが、中国の文化に触れる為に寄ってみては如何でしょうか? 尚、公衆トイレは有料(2角)です。(10角=1元)

我要去

(~へ行きたい。)

ウォヤオチー

道に迷った時ほど心細いものはありませんね。

アクアネット
Let's mind the harbour!



湊文社
SOBUNSHA

交和パレイユ

Kowa Pareille

祝福の宴の演出を
してみないか。

03-3371-8264

広告掲載希望者は当社広告
製作部まで御連絡下さい。

ベトナム
越南・広東 小皿料理

ユウコウエン
裕香園

中野駅北口
3387-6166

好子吃好香

世界の「原点表現」を

学習指導要領二 二年改訂

日本の外国語教育はどこへ行く

またまた指導要領が改訂されて、二年には小学校の英語教育がスタートし、中学校の英語はさらに「話すこと」聞くことへ向かう。うまくいくのかな。今だって教科書にはいろんな会話表現が満載だけれど、実際に使われないから、何にもならない。ただ消えゆくのみ。諸行無常の響きあり。そんな中、これ以上こちゃこちゃ実用機会もない会話表現を増やして意味があるのだろうか。本当に大事なことが置き去りにされてやしないか。

「はい」「いいえ」「こんにちは」「さようなら」「すみません」「ありがとう」「どういたしまして」「ごめんなさい」原点である。誰だって憶えられるのである。すべての会話はここから始まるのである。まずはこいつらを上手に操れるようになりたい。操る心を育みたい。そんな心こそコミュニケーションの基本であると私は信ずる。細かい話はその後のことである。細かい話はその後のことである。細かい話はその後のことである。

さて、賢明な読者諸氏はすでにお気づきのことと思うが、せつかくこのアイデアも、英語だけでは間が持たない。案ずる事なかれ。英語だけが言語ではないのである。世界

中には何千もの言語があるのである。だいたい現地には現地の言葉があるのに、妙に英語が幅を利かせ過ぎてやしないか。電波少年のヒッチハイクも、去年のドロンスは中南米じゃスペイン語で、グラシアスありがとうって言うてたけど、今年のパンヤオは、ありやいかん。どこに行っても、サンキューだもんな。なんて失礼なやつらだ。現地の言葉で言うのが礼儀だろうが。何より現地語で話しかければ、後の扱いが違うことだって良くあることなのだ。親切にしてくれたりするのだ。あんなやらせの親切が、やつら本当に嬉しいのか。(おっと。いかん。熱くなつてしまった。まさに俺こそ電波少年の思いつきだったのであったのだな)

というわけで第一段階。世界各国の原点表現を学んでみよう。まずは近くて遠い国、ロシアを目指す。



原点シミュレーション(ロシア編) こんなときどういう？

今回は一人の若者がロシアへの旅に出ます。彼の体験を通してロシア語の原点表現を学びましょう。

新潟空港を飛び立って2時間。眼下には、地平線まで一面にガラスの破片をちりばめたような大湿地帯が、夕日に映えてきらきら光っている。ああ、美しい、.....どっ.....どっ.....どっ.....どたっどたっどたっ。せつかくうっとり気分なのに、ドタドタ歩いてくるやつあ誰だ、と思ったら、体格のよろしいスチュワーデスらしきおばちゃんにシートベルトを締めると注意された。かと思ったら、いきなり飛行機は急降下を始めた。パイロットめ、いつまでも戦闘機に乗ってるつもりで操縦してやがる。と見る間に機体が落ちてゆく。おちるおちるおちるおちるおちる。ああもうだめかも。

ダスピダーニヤ()
これはロシア語の「さようなら」。これも運命なのかという潔い諦め。

助けてくれっ！ぐがっ、キキッ、ごごおー。

ハラショー！()
これはロシア語の「よっしゃあ」。まあ何とか着陸できたんだからよしとして、パイロットの偉業をたたえてやるのもまたよし。ここで「ふざけるな」とか「気をつけろ」とか言ってるようではあまりにも余裕がなさ過ぎます。日本人の太っ腹なところを見せてやりたいと思います。

なんで聞かえたのかなあ。小さく「へたくそ」ってつぶやいただけなのになあ。どうやら私を睨みつけているスチュワーデスは、日本語が分かるらしい。兎にも角にもここは東シベリアの中心都市、ハバロフスクである。明日はいよいよモスクワに向けてシベリア鉄道に乗り込む。

翌朝。駅には何とか滑り込みセーフ。列車はもう到着している。改札の辺りにあんまり人がないってことは、本当にぎりぎりだったのかも。急いで改札を済ませ、駆け足で列車に乗り込んだ。あらかじめ指定されたベッドを探す。何せモスクワまで六日間の長丁場。ルームメイトとはどこまで一緒か分からないけれど、なんていうか、こう、気さくな人だといいなあ.....。おっとここだな。あれ、カーテンが閉まっている。なんでだろ。寝てんのかな。まあとにかく第一印象が大事だ。気持ちいいあいさつで、と、カーテンを開けると、左右とも二段ベッドの四人部屋で、上の段には一人ずつ若い男が。

ズドラーストヴィーチェ()
これがロシア語の「こんにちは」。ここでうっかり「ハロー」なんてやっちゃうと、一瞬にらみつけられたかと思うと妙に不機嫌そうな表情でまるっきり無視、ってなことになってしまいかねません。

そんなわけで、「ハロー」を二度も言って自らにとどめを刺してしまった私は、もはやスターリンのソ連に封鎖された西ベルリン。陸の孤島。とりあえず下の段のベッドに座って、追々何とかするさ、と気を取り直しつつ窓の外に目をやると、見渡すかぎりの樹林帯。イメージどおりのシベリアだなあ.....。とそこに現れたのは車掌。まるっきり東洋人の顔をしている。愛想よくにっこりと微笑んだかと思うと、「わたしニコライです。ヨコハマいったことあるよ」などと片言の日本語をしゃべる。なんだかあやしいぞ。「ヨコハマ」なんてカタカナで言うてやがる。おっと、いきなりそんなふうに関心つけちゃいけないかな。

「カスタム、カスタム」
えっ？カスタム？それって英語？税関のこと？ふーん。どうやらこいつ、税関申告書を見せろって言うてるらしいな。それって所持金がいくらか書いてあるやつじゃん。なんで？車掌にそんなの見せる必要ないと思うんだけど。

ニエツト()
これはロシア語の「いいえ」。君子危うきに近寄らず、です。もしもあなたがいいじゃないの、見せてやれば。まずいことになってもいい経験でしょ。それが旅してもんだなんて強気な人なら、ダー()と試してみよう。こっちは「はい」。

ダーと言ったが最後である。私の懐の福沢諭吉やら夏目漱石は、この国ではただ者ではないのであった。ここは夏目くん一人で一週間は豪勢に暮らせる国なのだった。貧乏旅行者であるはずの私は、実は大富豪なのであった。時計を売りに来る。タバコを売りに来る。特別にシャワーを浴びさせてやる、有料で、と来る。ニコライのみならず。次は女の車掌が出てきて、ビールはいかが？ドイツビールよ、と来る。いくら？と訊くと、ファイブハンドレッドエン。へっ？円？ロシアの通貨ルーブルなど紙切れ同然なのである。何だよ東京でもツアーハンドレッドエンだぜって言うてみたら、オッケー、ツアーハンドレッド。買ってしまった。百円玉で釣りまでくれた。くそっ、百円って言ったときゃよかった.....。つづく。(望月)

パパ堀井の法律教室

今回は今までの話から少し離れて、『クーリング・オフ』について説明します。『クーリング・オフ』という言葉は聞いたことがあっても、それがどういうことなのかは解らない、という人が多いでしょう。『クーリング・オフ』というのは、相手方の事情を考慮することなく一方的にできる無条件の契約解除手続(正確には、申込みの撤回)です。無条件なので、自分が過失があつたかどうかとかそれによつて相手が損害を被つたかどうかという事情を考慮する必要はありません。法律の規定に従つて解除手続をとれば後腐れは無い、という有難い制度です。大切なのはどういついときにクーリング・オフできるのか、クーリング・オフのためにはどうすればいいのを知ることです。実は、クーリング・オフは、訪問販売等に関する法律の一部として定められています。訪問販売等によるトラブルから消費者を保護しようというのがこの制度の趣旨なのです。しかし、世の中の変化に伴い様々な形態の商法が生じたために、他の法律にもこの制度は採り入れられています。さて条文ですが、

第6条 訪問販売における契約の申込みの撤回等(販売業者若しくは役務提供事業者が営業所等以外の場所において・・・(中略)・・・購入者若しくは役務の提供を受ける者)以下この条において「申込者等」という。(は、次に掲げる場合を除き、書面によりその売買契約若しくは役務提供契約の申込みの撤回又はその売買契約若しくは役務提供契約の解除)以下この条において「申込みの撤回等」という。(を行うことができる。

一 申込者等が第五条の書面を受領した日(その日前に第四条の書面を受領した場合にあつては、その書面を受領した日)から起算して八日を経過したとき。

二 申込者等が第四条又は第五条の書面を受領した場合において、指定商品でその使用若しくは一部の消費により価額が著しく減少するおそれがある商品として政令で定めるものを使用し又はその全部若しくは一部を消費したとき。

三 第五条第二項に規定する場合において、当該売買契約に係る指定商品若しくは指定権利の代金又は当該役務提供契約に係る指定役務の対価の総額が政令で定める金額に満たないとき。

二 申込みの撤回等は、当該申込みの撤回等に係る書面を発した時に、その効力を生ずる。

三 申込みの撤回等があつた場合においては、販売業者又は役務提供事業者は、その申込みの撤回等に伴つて損害賠償又は違約金の支払を請求する

二 申込みの撤回等は、当該申込みの撤回等に係る書面を発した時に、その効力を生ずる。

三 申込みの撤回等があつた場合においては、販売業者又は役務提供事業者は、その申込みの撤回等に伴つて損害賠償又は違約金の支払を請求する

(一面から続く)

なに技術(ぎじゆつ)を駆使(くわい)しても、完璧(びんぺい)な図(ず)は描(え)けないのだ、ということがもう一点。

コンピュータで作図(さくず)をしたことがある人も少なくないだろう。きちんと使えば、人間の色感(しきかん)を超えるレベルの微妙(びみょう)な色合い(いろあひ)で、驚(おどろ)くほど正確(せうかく)な図(ず)が描(え)ける。ところが、実際のところは、モニタ上に表現(ひょうげん)された図形(ずがた)は点(てん)の集合(しゆごう)でしかない。実寸(じつすん)でどんなに美しい円(まど)に見えるものでも、拡大(くわくだい)していけば点(てん)が並(なら)んでいるだけである。これは、紙(かみ)と鉛筆(えんぴつ)、ホワイトボード(わいとうぼーど)とマーカー(まーかー)を使(つか)つても同じ(おな)じことだ。春夏(しゆんげ)の甲子園(こうしゆゑん)球場(きうじやう)で目(め)にするような、色(いろ)の着(き)いた紙(かみ)を使(つか)つて、「P」などと表現(ひょうげん)しているのと同じ(おな)じようなものなのである。

逆に言(い)つと、そういう完璧(びんぺい)ではないものを眺(なが)めても、私(わたし)たちは、それが円(まど)だの直線(ちくせん)だの、はたまた、二次(じ)曲線(きよくせん)だのと認識(にんしき)することができ(き)るのである。紙(かみ)やホワイトボード(わいとうぼーど)という一次(いち)元(げん)上に、線(せん)らしきもの(が)がしゃがしゃと並(なら)べて書(か)かれてい(い)るものを見て、立方体(りゆうぱうたい)や円錐(えんすい)といった三次元(さんげん)の物体(ぶたい)だと認識(にんしき)する(こ)う

ことができ(き)ない。

4 申込みの撤回等(わいしやく)があつた場合(ばいばう)において、その売買契約(ばいばいけいやく)に係(か)る商品(しゆひん)の引渡(ひきわた)し又は権利(けんり)の移轉(いりてん)が既(すで)にされてい(い)るときは、その引取り(ひきとり)又は返還(へんげん)に要(い)する費用(ひようぎん)は、販売業者(はんばいしや)の負担(おん)とする。(以下(以下)省略(りゃく))

例(れい)によつて分(わ)かりにくい表現(ひょうげん)です。要(い)するに、この法律(ほり)が適用(てん)される(とき)には理由(りゆう)の如何(いか)を問(と)わず、「契約(けいやく)の申込み(おんまひ)をした者(しよ)は、その申込み(おんまひ)を一(いち)方的(ていぱく)に撤回(わいしやく)できる」ということ(こと)です。その場合(ばいばう)、業者(しや)の方(かた)から損害(しんがい)の賠償(ばいばい)を請求(せいきう)することはでき(き)ないし、手続(ていじゆ)にかか(か)る費用(ひようぎん)返送料(へんそうりやう)など(な)も業者(しや)側の負担(おん)となり(な)ります。

但(た)し、前記(ぜんき)条文(じゆん)の一(いち)三(さん)に該當(がいとう)する(場合)にはクーリング・オフ(おふ)による契(せき)約(やく)の撤回(わいしやく)等(とう)は、業者(しや)の方(かた)から損害(しんがい)の賠償(ばいばい)を請求(せいきう)することはでき(き)ないし、手続(ていじゆ)にかか(か)る費用(ひようぎん)返送料(へんそうりやう)など(な)も業者(しや)側の負担(おん)となり(な)ります。

Daddy's Law School

とさせ(させ)るのである。

自然界(けんせikai)には完全(てんぜん)な円(まど)や直線(ちくせん)などは存在(そんざい)しないのに、なぜ(なぜ)、数字(すうじ)が成(な)り立(た)つのか(のか)という(と)、それ(それ)ら、完全(てんぜん)なもの(もの)たちが、私(わたし)たちの心(こゝろ)の中(なか)に存在(そんざい)する(から)だ。今(いま)、私(わたし)たちが有(あ)りてい(い)る技術(ぎじゆつ)では完全(てんぜん)な円(まど)を描(え)くこと(こと)はでき(き)ない。けれど、想像力(さうぞうりき)を持(も)つて(す)れば、完全(てんぜん)な円(まど)を思(おも)い浮(う)か(か)べる(こ)と(と)はでき(き)るのである。最初(さいしゆ)に書(か)いたよ(よ)うに、数字(すうじ)は約束(やくそく)事(じ)によ(よ)つて成(な)り立(た)つてい(い)るの(の)は確(た)かだ。が、実(じ)際(さい)には、それ(それ)だけ(だけ)ではなく、いや、それ(それ)以上に、我(われ)々の想像力(さうぞうりき)に支(た)えら(ら)れてい(い)るのである。

完全(てんぜん)な人間(にんげん)など存在(そんざい)しない、という(と)よ(よ)うな物言(ものい)いがある。結構(けつこう)存在(そんざい)しな(な)くた(た)つてかま(ま)わ(わ)ない。何(なに)しろ、そこ(そこ)に想像力(さうぞうりき)がある(あ)る限り(かぎり)、完全(てんぜん)な人間(にんげん)が現(あら)実に存在(そんざい)しな(な)くても、完全(てんぜん)な人間(にんげん)を思(おも)い描(え)くこと(こと)は可能(かんな)なのだ。それ(それ)を理想(りようきやう)にす(す)ることができ(き)るのか(か)、あ(あ)るいは、単(ただ)なる幻想(げんさう)でしか(しか)ないと片付(かたづけ)けてしま(しま)うのか(か)、それ(それ)は人(ひと)それぞれ(それぞれ)である(である)にせ(せ)や。

(全(全)五(ご)六(ろく))

約(やく)の撤回(わいしやく)はでき(き)なくな(な)ります。この(この)うち(うち)特に重要(じゆうじやう)なのは、8(はち)日間(か)んという(と)期間(きかん)の制限(せいげん)です。この(この)期間(きかん)を過(か)ぎてしま(しま)つとクーリング・オフ(おふ)でき(き)なくな(な)るので注意(ちゆうい)が必要(ひつや)です。また、撤回(わいしやく)の申込み(おんまひ)は必ず(かならず)「書面(しよめん)で行(い)わなければ(なければ)なり(な)りませ(ませ)ん。一般(いぱん)的には「内容証明郵便(内容証明郵便)」など(な)どを利用(りよう)して行(い)つこと(こと)になり(な)ります。これは、撤回(わいしやく)の申込み(おんまひ)が行(い)われた(た)ことを確(た)実に証明(しやうめい)し無用(むじよう)なトラブル(たふらぶ)を避(さ)けるための措(そ)置(ち)です。では、ど(ど)のよ(よ)うな場合(ばいばう)にこの(この)法律(ほり)が適用(てん)される(ので)しょうか(か)? それ(それ)について(てい)は次(つぎ)号(ごう)で。

編集後記

からす新聞(からすしんぶん)第七(なな)号(ごう)、無事(むじ)、発刊(はつぱん)でき(き)ました。新聞(しんぶん)に限(かぎ)らず、これ(これ)からも新企(しんきん)画(が)目(め)白(しろ)押し(お)しなので、みなさん(みなさん)の御協(ごきょう)力を(を)お願(ねが)いいた(いた)します。御意見(ごいけん)・御要望(ごきやうぼう)を(を)ぜひ(ぜひ)お寄(よ)り下(くだ)さい。次号(つぎごう)発刊(はつぱん)予定(よんてい)日は(は)十二月(じふにがつ)二十五(にじふご)日(にち)です。編集協(へんしゆきょう)力者(りきしや)、特派員記者(ていぱんいんきしや) 及び(及び)、投稿(ていこう)を熱(ねつ)烈(れつ)に(を)待(まち)ちして(して)お(お)り(り)ます。

来社(らいしや)見学(けんがく)を御希(ごき)望(ぼう)の方(かた)は左記(さき)のと(と)ころへ。丸(まる)ノ内線(うちいせん)新中野(しんちゆの)駅(えき)徒歩(ていぽ)〇分(ぶん)

